

2022年度 学校自己評価および学校関係者評価

2023年6月20日
 学校法人 恵真学院
 日本医療秘書専門学校

<学校教育目標>

- ・人としての感性豊かな倫理観・専門職業人としての倫理観をもって対応できる能力を修得する。
- ・多様化している医療事務職のニーズに対応できるようアセスメント能力を養い、医療事務職としての知識・技術を修得する。
- ・チーム医療の一員として協働できるよう他職種との専門性への理解と協調性を養う。

<本年度重点目標>

- ・学生の希望に沿った就職であることを前提とした高い就職率を堅持する。
- ・各学生の能力および個性を見極めることによる教育の質の向上を図り、資格取得、検定合格者のUPを目指す。

評価は1～4の4段階とする。
 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：要

| 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|-----------|--|------------|--|
| 評価項目 | 評価 | 課題・今後の改善策等 | |
| 教育理念・目標 | 理念・目的・育成人材像が定められている | 4 | 理念・目的・育成人材像の周知について 学生募集時の訴求にて、周知、賛同された上で入学であると理解する。 また、体験入学には概ね保護者同伴での参加であることから、本人は固より、保護者においても同様であると判断できる。また、入学後も学生は授業にて、保護者には主に書面にて意識付けをおこなっている。 |
| | 学校における職業教育の特色がある | 4 | 以上の点から本学が高等教育機関であることから鑑みて特筆すべき改善点は挙げられないが、学生や保護者の考え方や社会の変化に伴う新たな施策の模索、検討を否定するものではない。 |
| | 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来像がある | 4 | 各学科の教育目標、育成人材像の方向づけについて 専門分野にて実務経験のある講師を配することにより、業界のニーズに向けた方向づけができておりと判断している。 講師の独立性の観点から、個別の授業について検証することまでは困難であるが、シラバスに基づき、適正であると理解している。改善については余地はないと考えるが、実習先や就職先の巡回により業界のニーズを把握し社会状況の変化に適応したカリキュラムを組むべく意識の向上を図っていききたい。 |
| | 理念・目的・育成人材像の生徒・保護者等への周知 | 4 | 教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備 本学を取り巻く環境、規模、組織の構成等に鑑みて、現状が適切であると考える。しかしながら、時代の流れ等に対応したより良い形が構築できるような柔軟に検討することを否定するものではない。 |
| | 各学科の教育目標、育成人材像は対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| 学校運営 | 目的に沿った運営方針が策定されている | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 事業計画に沿った運営方針が策定されている | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 運営組織や意思決定機能が、規則等において明確化されている | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 人事・給与に関する制度整備 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備 | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 教育活動に関する適切な情報公開 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| 教育活動 | 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保の明確化 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | カリキュラムの体系的な編成 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | キャリア教育・実践的な職業教育の観点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等の実施 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 関係分野の施設、業界団体等との連携によるカリキュラムの作成・見直し等の実施 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 関連分野における実践的な職業教育（実技・実習等）が体系的に位置づけられている | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 授業評価の実施・評価体制の有無 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 職業に関する外部関係者からの評価の取り入れ | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 成績評価・単位認定の基準の明確化 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 資格取得の指導体制、カリキュラム内での体系的な位置づけ | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| 学修成果 | 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員の確保 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 関連分野における業界等との連携において優れた教員の提供先を確保する等のマネジメント | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 教員の能力開発のための研修等の実施 | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 就職率の向上を図る | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| 学生支援 | 資格取得率の向上を図る | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 退学率の低減を図る | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価の把握 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 卒業後のキャリア形成への効果の把握および学校教育活動の改善への活用 | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 進路・就職に関する支援体制の整備 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| 教育環境 | 学生相談に関する体制の整備 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 学生の経済的側面に対する支援体制の整備 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 学生の健康管理を担う組織体制の整備 | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 学生の生活環境への支援 | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 保護者との適切な連携 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 卒業生への支援体制 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| 教育環境 | 教育上の必要性に十分対応できる施設・設備の整備 | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 学内外の実習施設等について十分な教育体制の整備 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 防災に対する体制整備 | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| 学生の受入れ募集 | 適正な学生募集活動 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 学生募集活動において、教育成果が正確に伝えられている | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 学納金が妥当であるか | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| 財務 | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 予算・収支計画は有効かつ妥当か | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| 法令等の遵守 | 財務情報公開の体制整備ができているか | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 法令、専修学校設置基準等の遵守および適正な運営 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 個人情報保護のための対策をとっているか | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 自己評価の実施と問題点の改善努力 | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| 社会貢献・地域貢献 | 自己評価結果の公開 | 4 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献 | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| 社会貢献・地域貢献 | 学生のボランティア活動の奨励・支援 | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |
| | 生徒のボランティア活動の奨励・支援 | 3 | 業務効率化について 本学の規模、組織構成等に鑑みてハード、ソフトの両面から評価を行う。情報システム化等ハード面については費用対効果の観点から改善余地を認めず、現状を適切としたい。 ソフト面においては、情報共有を代表とした、組織を構成する教職員個々で改善しよう点はあると考える。個々が問題意識をもって業務に取組むよう意識づけを促す必要がある。 |

<総合評価>

- ・ 総じて一定以上の評価ができると考える。
- ・ 高い就職率を堅持できたこと、検定合格率がUPしたことを評価したい。特筆すべきは、診療情報管理士試験において受験者選抜をしないなかでの全員合格したこと、これについては最大の評価とした。
- ・ 医療を取り巻く環境に動向し、就職率を堅持すべくカリキュラム等の検討も含め、あらゆる観点から取り組みを行いたいと考える。
- ・ 学生募集においては新型コロナウイルスの影響にて医療従事者となることを避ける傾向があると考えている。従って、これまで以上の取り組み強化が急務であると見え、対応をしていきたい。

<学校関係者評価 総評>

- ・ 総じて、自己評価に対し異論を唱えるべき点はないと判断する。
- ・ 学校の規模、現状、とりまく環境等に鑑みて、すべての項目において努力も含め適切な対応がなされていると評価したい。
- ・ 本評価にて何点が提案をおこなっているが、机上論であり実行不可能なものも含まれていることは織り込み済みである。
- ・ 現状について高評価をしていることから本提案に縛られることなく、質の高い教育、学校運営がなされるよう引き続き努力されることを期待する。